

新計算機システムの紹介

Introduction of New Computer System

川田工業株式会社・技術本部

1. 概要

現在、電算センターに導入設置されているコンピュータシステムは、昭和59年1月に導入されたUNIVAC1100/71であり、以後業務量の増加と共にメモリ、ディスク、プリンタ等のレベルアップを計ってきた。しかし業務の伸び、各支社のニーズ等により現在のシステムでは処理能力の限界に来ている。そこで全社的なコンピュータ・システムのレベルアップの一環として、本システムの見直しを行った。またホスト、サブホストマシンの強化に伴い各支社、各工場間の回線のレベルアップも必須のものとなり、NCC (New Common Carriers) 利用について検討した。その結果安定性等で問題点は無いと判断し、コストダウンも計れる事からNCC回線を導入することとした。

2. 新システムの特徴

新システムでは、CPU、I/Oの処理能力を2～3倍に強化し、周辺機器についても静電プロッタ、グラフィック・ディスプレイ等の導入、増設によりスムーズな業務処理を確立する事が可能となる。また電算センターのマシンは、通信制御装置を介してのマシンの2分化を採用し、ユーザーアプリケーションの分散と、トラブル時のホットスタンバイとしても運用可能である。

通信回線については、事務専用マシンである東京本社SYSTEM-11Dをより効率良く活用するために、事務データ回線と技術データ回線とに分離した。これにより技術系は事務データのリアル処理による影響を受ける事なく業務を遂行する事が可能となった。

またホスト、サブホストマシンについては、次期レベルアップにも柔軟に対応できるよう選定した。

3. あとがき

今回のレベルアップは、ホストマシンの性能アップ、容量アップとともに、サブホストマシンも強化する事により処理の分散を計る事を目的として実施した。しかしこれに伴って、これに携わる運用管理者の育成も必要となってくるが、現在オペレーティング・システムのレベルアップ等により自動起動、自動運転、自動停止等の新機能も提供されており、これをうまく利用し“コンピュータのコンピュータによる管理”の方向へ進めるべく検討している。

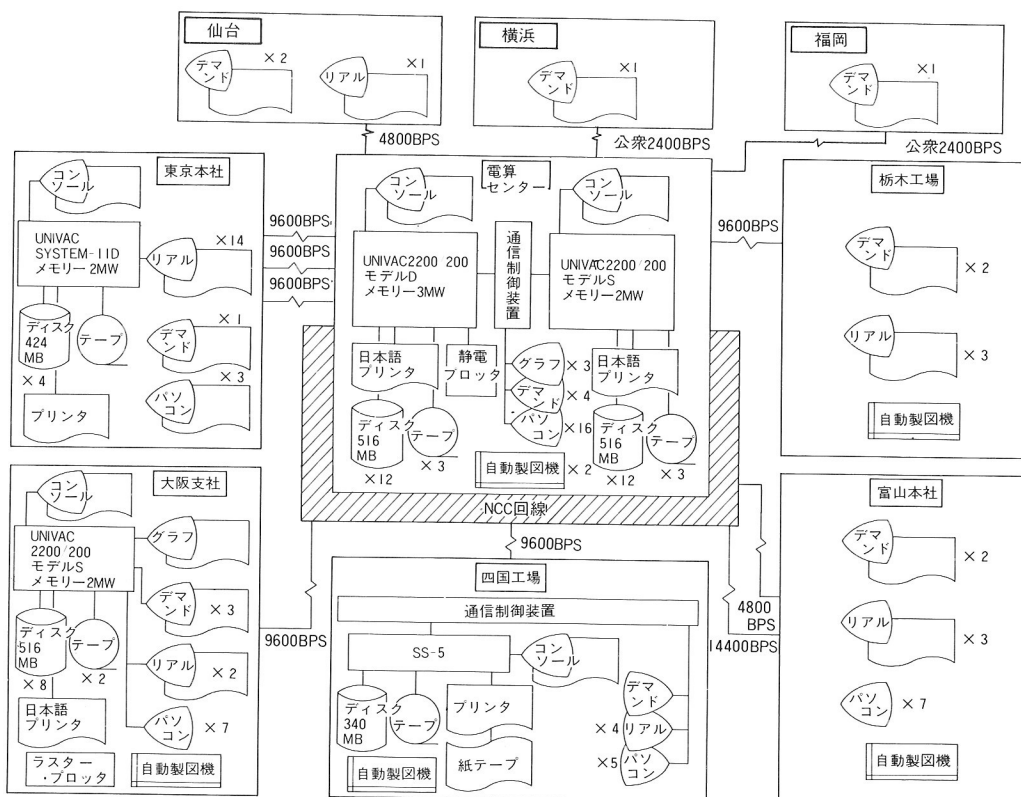


図-1 システムネットワーク図

(文責・寺田博志)